



藻器堀川について学ぶ 3年生

本日21日(水)は、3年生が総合的な学習の時間に、緑川や藻器堀(しょうけぼり)川について、国土交通省と市役所の河川課の方から学びました。藻器堀川は「わくわく通信137号」で紹介した通り、帯西校区を流れている一級河川です。今日は、子供たちも自分たちで調べてきた学びをさらに深めるために、専門家から学ぶことができて、貴重な時間となったようです。藻器堀川は、東区にある「おにぎり池」という水が湧く池から江津湖を抜けて、加勢川から緑川、そして有明海まで川の水が流れています。昔は、田んぼの水や生活用水として需要が高かったようです。田んぼが、住宅地に変わったことで、大雨の度に川の水の行き場がなくなり、水が溢れていたため、河川改修で川幅を広くしたり、水路を分けたりしながら溢れない工夫をし、安心して生活できるようにしたそうです。



藻器堀川は、今でも多様な生物が棲息しているようで、校区の川には、スッポンやドジョウ(準絶滅危惧種)、ドンコにギンヤンマ、ミナミメダカ(準絶滅危惧種)もいるということでした。

また、私も幼少の頃からの遊びのフィールドだった緑川の名前の由来は「(蒙古襲来時の伝説の武者)百合若大臣が飼う鷹「緑丸」が洞窟にまつられており、昔はそこが水源と考えられていたから緑川となった」という説もあることに、驚きました。

子供たちは「川は雨によって水位が変わることが興味深かった。安全に暮らすために水位を調整してくれる人がいるからありがたいと思った。」「川にはたくさんの生き物が住んでいるから、川を大切にしたいと思った。」など感想を述べていました。学びの多い時間となったようです。

すてきな歌声が石川県へ響き届け ～合唱部～

20日(火)に、合唱部がTKU放送局の企画もあり、地震復興へ繋ぐ歌「しあわせ運べるように」の撮影が行われました。

元日に起きた能登地震への鎮魂と復興を願い、熊本から様々な祈りを込めて合唱部の素敵な歌声を録音しました。放送局の方は「熊本地震時は1か月後に、この歌を神戸から届けられ、テレビで放送しました。しかし、今の能登の復興の厳しい状況を考えると、2か月後の3月1日が妥当だろうと話しました。2月20日の同じ時刻ごろに神戸の小学校でも録音がされています。」と話されました。歌っている合唱部の子供たちを見ながら「この子供たちも熊本地震は記憶があまりないかもしれない。この歌を通じて振り返ったり、同じ被災地の住民として能登へ思いを馳せたりしてほしい。」と話されました。

聞かれていた外部の方も「言葉が一言ずつしっかり思いが込められている」「明るい歌声で癒される」などと感想を述べられていました。この模様は、放映日が決まり次第、お伝えいたします。

